

文教経済 委員会

重点調査項目 一分野別市民意見交換会一

- ① 観光政策の展開について
- ② 若者雇用の創出について
- ③ 地産地消の取り組みについて

上記の今年度重点調査項目について調査するため、各種団体との意見交換会や職場などに伺っての聞き取りなどを行っています。

奥飛騨温泉郷における観光の状況について

— 奥飛騨温泉郷観光協会 —

《平成24年7月10日(月)・奥飛騨文化センター》

奥飛騨温泉郷は、高山の観光にとって大変重要なもう一つの観光地であり、大きな集客力を持つ魅力にあふれる地域である。しかしながら観光客は年々減少の傾向にあり、新たな観光資源の活用や情報発信などが求められている。

奥飛騨温泉郷観光協会との意見交換では、「『昇龍道プロジェクト』などで中部地方を積極的にPRする必要がある。」「観光客は海外より国内が多い。海外戦略だけでなく国内戦略も必要。」といった意見のほか、「飛騨高山の4文字に奥飛騨温泉郷が埋没している。観光の独自性を重視し奥飛騨温泉郷の魅力をもっと情報発信してほしい。」や「乗鞍は世界に発信できる宝であり、もう一度乗鞍を含む山岳観光を見直す必要がある。」などの意見をいただいた。

観光を考える上では、経済的側面はもちろんだが、観光資源の維持保全も重要なテーマである。お聞きした意見を踏まえて、乗鞍における適正な自動車利用について調べる中では、乗鞍マイカー規制以後、大気汚染状況や植生の回復などの数値が改善されてきていることも判明した。大きな要因としては、排気ガス減少のほかに、立ち入り禁止地域への踏み込みや植物の採集など人為的な反則行為が減少したこともあるようだ。



自然を満喫！新穂高ロープウェイ

また、平成24年8月17日～9月18日にわたり行われた「乗鞍スカイラインEV自動車乗り入れ実験・研究事業」では、最終的に104件の乗車があったが、申し込みは123件ありキャンセル待ちも出る状況であった。一方では、限られた期間と台数の中でも、禁止地域への踏み込みや植物の採集などといった反則行為があったことも報告されている。

若者雇用の創出について

— 県立高山工業高校 —

《平成24年10月12日(金)・岐阜県立高山工業高校》

高校生の就職実態を調査するため、高山工業高校にて聞き取りを行った。

「高い技能や習熟度を持ち、県外からも高い評価を受ける若者が育っているが、県内の企業は単独で社員研修を行う施設などを持っておらず、企業内研修学園を持つ県外の企業に多くの高校生が就職する実態がある。行政・産業界・教育機関が連携し、一体となって地域の「ものづくり」を支える人材を育成するとともに、高校生の地元就職促進を図るべき。」などの話をうかがった。

地産地消について

— 農業委員会 —

《平成24年11月30日(金)・高山市役所》

「食農教育」の必要性や学校給食等への高山産農産物の利用促進、さらには直売施設の充実による「地産地消」の推進を図るべきとの話をお聞きした。また、鳥獣害対策や後継者育成についてなど、農業政策全般についてのご意見もうかがった。



おいしさ満点！飛騨の野菜